



畑作・野菜・花き生産情報 第3号

令和2年6月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎小麦の刈取適期は6月末からの見込みです。適期収穫に努めましょう。
- ◎にんにくの生育は早まっており、収穫期も平年並から平年より早まる見込みです。収穫及び乾化作業の準備を計画的に行い、適期収穫に努めましょう。
- ◎高品質な花きの生産に向けて換気や遮光をこまめに行うなど、施設内の温湿度管理を徹底するとともに、病害虫の早期発見・早期防除に努めましょう。

畑作物

1 小麦 (1) 生育状況

- ア 開花期は、平年より2～6日早かった。
- イ 稈長は、黒石市の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」とともに平年よりかなり短く、六戸町の「ネバリゴシ」が平年並、穂長は、黒石市の「ネバリゴシ」が平年よりやや短いほかは平年並、穂数は、黒石市の「ネバリゴシ」が平年並、「キタカミコムギ」は平年よりかなり少なく、六戸町の「ネバリゴシ」は平年よりかなり多くなっている。

表-1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/13	5/22	5/16	5/26
	平年差	(早8日)	(早6日)	(早7日)	(早3日)
	平 年	5/21	5/28	5/23	5/29
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/14	5/26		
	平年差	(早6日)	(早3日)		
	平 年	5/20	5/29		
つがる市 (木造)	本 年	5/14	5/24	5/16	5/27
	平年差	(早6日)	(早4日)	(早5日)	(早3日)
	平 年	5/20	5/28	5/21	5/30
十和田市 (相坂)	本 年	5/16	5/28		
	平年差	(早7日)	(早2日)		
	平 年	5/23	5/30		
	前 年	5/19	5/24	5/21	5/25

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績。
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去14か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去11か年(23年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去18か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去24か年の平均値。

表－２ 小麦の生育状況（６月１０日）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	66.4	7.1	413	77.4	8.5	258
	平年比	(90%)	(93%)	(102%)	(91%)	(99%)	(75%)
	前 年	73.7	7.6	405	85.0	8.6	344
野菜研究所 (六戸町)	本 年	91.8	8.1	773			
	平年比	(100%)	(98%)	(111%)			
	前 年	92.1	8.3	695			
		76.3	8.5	583			

(2) 今後の農作業の留意点

ア 刈取準備

- (ア) 適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。
- (イ) 効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取

- (ア) 刈取適期は6月末からとなる見込みである。穂数の少ないほ場ではこれより早まることも予想されるのでよく観察し、収穫が遅れないようにする。
- (イ) 刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめどに行う。
- (ウ) 刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に収穫する。
- (エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、仕分刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- (オ) 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、収穫前に赤かび病の発生状況を把握し、罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

表－３ 積算温度による刈取適期の見込み

品種 地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
中 南	5/13	7/1～6	5/16	7/7～11	5/12	6/30～7/1
西 北	5/14	7/2～6	5/16	7/6～10	-	-
上 北	5/16	7/6～10	-	-	-	-

- 注) ①出穂期以降の積算温度(「ネバリゴシ」: 830～950℃、「キタカミコムギ」: 900～1,000℃、「ゆきちから」: 840～867℃)を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス(中南は黒石、西北は五所川原、上北は十和田)から計算した(6/14現在)。
②出穂期は、表－1及び中南地域からの聞き取り。

2 大豆

(1) 生育状況

出芽期は、黒石市で平年より2日早く、六戸町で平年より3日遅かった。

表-4 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/26	6/3
	(平年差)	(遅1日)	(早2日)
	平 年	5/25	6/5
前 年	5/24	6/5	
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/15	5/28
	(平年差)	(±0日)	(遅3日)
	平 年	5/15	5/25
前 年	5/15	5/21	

注) ①品種は「おおすず」。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去15か年、野菜研究所が過去13か年の平均値。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ア 六戸町、藤崎町、七戸町では、生育は地上部、地下部ともに平年並から平年を上回っており、生育は早まっている。田子町では、マルチをグリーンから黒に変えたこともあり、地上部、地下部とも平年(参考値)を下回っている。
- イ 収穫期は、平年並から平年より早まると見込まれる。
- ウ 病害虫は、春腐病、さび病が散見される。

表－５ にんにくの生育状況（６月１０日現在）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	103.9 (106%)	13.0 (103%)	20.5 (104%)	58.2 (100%)	84.1 (103%)	4/11 (10日早)	— (—)
	平年	98.4	12.6	19.8	58.0	81.8	4/20	7/ 1
	前年	103.1	13.2	19.1	66.1	100.6	4/21	6/20
藤 崎 町 (福 島)	本年 (平比)	81.9 (99%)	8.2 (99%)	20.9 (103%)	53.0 (103%)	69.4 (107%)	4/29 (±0日)	— (—)
	平年	83.1	8.3	20.3	51.4	64.8	4/29	7/ 2
	前年	82.6	7.9	18.9	54.6	62.3	4/30	6/30
七 戸 町 (榎 林)	本年 (平比)	84.9 (102%)	6.7 (82%)	20.8 (99%)	61.8 (114%)	101.4 (142%)	4/16 (8日早)	— (—)
	平年	82.9	8.2	21.0	54.2	71.5	4/24	6/27
	前年	80.5	7.3	21.6	57.7	75.9	4/23	6/20
田 子 町 (田 子)	本年 (平比)	78.2 (97%)	7.9 (94%)	17.0 (88%)	54.0 (98%)	66.5 (91%)	4/20 (3日早)	— (—)
	平年	80.9	8.4	19.4	55.2	72.8	4/23	6/28
	前年	75.3	7.7	16.0	59.2	75.3	4/21	6/26

注) ①平年：野菜研究所は平成22～31年（令和元年）の10か年の平均値

藤崎町は平成9年～31年（令和元年）の23か年の平均値（品種が前年まで福地ホワイトのため、参考値）

七戸町は平成8年～31年（令和元年）（平成24年を除く）の23か年の平均値

田子町は平成8年～31年（令和元年）の24か年の平均値（マルチが前年までグリーンマルチ、本年は黒マルチのため参考値）

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）、藤崎町は白玉王（13～15g）、七戸町は白玉王（14g）、田子町は白玉王（10～12g）

③葉数：野菜研究所は抽出葉数、藤崎町、七戸町、田子町は生葉数

（２）今後の農作業の留意点

ア 病虫害の適期防除

（ア）球の肥大促進と割れ玉の発生軽減のため、収穫時までには1枚でも多く生葉を残すよう、収穫時期に合わせた病虫害防除を徹底する。

（イ）葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることもあるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 適期収穫

盤茎部ばんけいぶとりん片の尻部がほぼ水平となる収穫適期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。

ウ イモグサレセンチュウの防除対策

（ア）被害の拡大を防止するため、作業は種子ほ場から開始し、ほ場間を移動する際は機械等の洗浄を徹底する。

(イ) イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③残渣のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな乾燥を行う。

(ウ) なお、種子用のにんにくは、イモグサレセンチュウの発生を必ず確認し、異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

[イモグサレセンチュウ被害の確認方法]

根がついたまま、20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。

エ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、煮え症状発生防止のため、にんにく付近の温度が38℃以上にならないよう管理する。

(イ) 乾燥の仕上がりは重量が7割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(ウ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10～15%」を乾燥仕上がりを目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来の判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、水分が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況等

ア 植付作業は、平年並の4月末頃から始まり、6月上旬に終了した。

イ 病虫害の発生はみられない。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行う。

表－6 ながいもの追肥方法

	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
		種いも：子いも	種いも：切いも
追肥開始時期の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後60日前後（6月下旬～7月上旬） ・新しいも長は5cm 前後 ・つる長は150cm 前後 	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後45～55日頃（7月中旬頃） 	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後55～65日頃（7月中下旬頃）
追肥の間隔及び回数	<ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回 	
1回当たりの追肥量	<ul style="list-style-type: none"> ・10a 当たり窒素成分で5kg以内とする。 		

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病害虫の適期防除

- （ア）葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。
- （イ）採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表－7 アブラムシ類、カゲレコガ及び葉渋病の発生時期の目安（月／旬）

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		カゲレコガ	葉渋病
			発生初め	発生盛期	幼虫	発生初め
早植栽培	5／上	5／下	5／下	6／中～下	6／中	7／中
普通栽培	5／下	6／下	6／下	7／中	7／中	8／下

ウ 排水対策

- （ア）大雨に備え、明きよを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- （イ）植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

3 春夏にんじん（トンネル栽培）

（1）生育状況

- ア 生育は、地上部、地下部ともに平年並で、順調である。
- イ 病害虫の発生はみられない。

表－8 春夏にんじんの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
六 戸 町 (犬落瀬)	本年 (平比)	3/12 (3日早)	57.8 (101%)	8.4 (97%)	18.1 (105%)	36.5 (99%)	90.3 (101%)
	平年	3/15	57.4	8.6	17.2	36.9	89.8
	前年	3/ 5	64.0	8.9	15.8	39.1	97.2

注) ①平年：平成22年～31年（令和元年）の10か年の平均値

②品種：彩誉7

(2) 今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

4 ばれいしょ

(1) 生育状況

ア 4月の低温により萌芽が遅れたことから、その後の生育も遅れており、草丈は平年をかなり下回り、茎数は平年を大幅に下回っている。

イ 着蕾期は平年並の5月29日、開花期は平年より1日遅い6月11日となった。

ウ 病害虫の発生はみられない。

表－9 ばれいしょの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平比)	3/27 (11日早)	5/ 9 (5日遅)	5/29 (±0日)	6/11 (1日遅)	56.4 (88%)	1.9 (73%)
	平年	4/ 7	5/ 4	5/29	6/10	64.0	2.6
	前年	4/ 6	5/ 5	5/26	6/ 8	66.8	2.0

注) ①平年：平成19年、平成21年～24年、平成26～31年（令和元年）の11か年の平均値

②萌芽期の平年：平成21年～24年、平成26～31年（令和元年）の10か年の平均値

③品種：メーカーイン

(2) 今後の農作業の留意点

ア 疫病の予防防除を徹底する。

イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。

ウ 日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見した場合は、ジャガイモシストセンチュウによる被害が疑われるため、指導機関に診断を依頼する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈、葉数は平年を大幅に上回り、生育は早まっている。
- イ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表-10 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	4/24 (5日早)	13.3 (132%)	2.4 (120%)
	平年	4/29	10.1	2.0
	前年	5/ 4	9.3	1.9

注) ①平年：平成21～31年（令和元年）の11か年の平均値
②品種：柳川理想

(2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

- ア トンネル栽培（5月上旬定植）では、主づる長が平年をやや下回っているが、主づるの葉数は平年並で、生育は順調である。
- イ 着果節位の開花期となっており、開花は順調である。
- ウ 病害虫は、つる枯れ病、アブラムシ類が散見される。

表-11 メロンの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)
つがる市 (木 造)	本年 (平年比)	5/ 8 (3日遅)	155.3 (96%)	21.9 (101%)
	平年	5/ 5	161.7	21.7
	前年	5/ 4	182.4	24.4

注) ①平年：平成26年から担当農家を変更したため、平成26～令和元年の6か年の平均値
②品種：タカミ（台木：スーパーエースストロング）

(2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。

ウ アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

ア 3月下旬定植では、草丈が平年を大幅に下回り、茎径が平年をかなり下回っており、生育は遅れている。

イ 4月下旬定植では、草丈が平年を大幅に上回り、茎径は平年並で、生育は順調である。

ウ 病害虫は、ハモグリバエ類、アザミウマ類の被害が散見される。

表-12 ねぎの生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平年比)	12/26 (17日早)	3/21 (6日早)	58.7 (83%)	14.2 (90%)
	平年	1/12	3/27	70.6	15.7
	前年	12/26	3/22	68.6	15.8
十 和 田 市 (洞 内)	本年 (平年比)	2/ 5 (11日早)	4/28 (1日早)	51.2 (122%)	8.6 (97%)
	平年	2/16	4/29	41.9	8.9
	前年	2/ 5	4/23	52.3	11.6

注) ①平年：八戸市は平成15～31年（令和元年）の17か年の平均値
十和田市は平成17～31年（令和元年）の15か年の平均値

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の農作業の留意点

ア 草勢の維持に努め、生育に応じて適期に培土や追肥を行う。

イ 主要病害のべと病が発生しているほ場では、蔓延しないよう防除を徹底する。

ウ ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

生育は順調である。病害虫の発生は、ほとんど見られない。

表－13 生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日	草丈 (cm)	葉数(枚)	備 考
新郷村	本 年	精の一世	4月27日	63.5	27.8	1本仕立て
五所川原市	本 年	岩の白扇	4月15日	51.3	16.0	2本仕立て
	前 年	岩の白扇	4月18日	59.8	19.3	2本仕立て

(注) 新郷村の平年値：本年から場所の変更によりなし
 五所川原市の平年値：平成30年から場所の変更によりなし

(2) 今後の作業

ア 芽かき

頂芽の花芽ができて5～7日経過するとわき芽が伸びてくるので、小さいうちにかき取る。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸長を抑えるため、発らい期～摘らい期にビーナイン顆粒水溶剤等を散布し、品質の向上に努める。

ウ 病虫害防除

多湿条件により、白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、こまめに換気するとともに適期防除に努める。

高温乾燥条件により、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

2 秋ギク

(1) 今後の作業

ア 定植

(ア) 10月出荷の作型は6月下旬までに定植する。

(イ) 土壌pHの矯正及び基肥の施用は定植2週間前までに行い、土に十分なじませしておく。

(ウ) 初期の水分不足は生育の遅れを招くので、定植の数日前に十分かん水しておく。

(エ) 苗は、1～2cm程度発根したものを定植する。

イ 定植後の管理

(ア) 定植後は、軽くかん水して活着を早める。

(イ) 日中は25℃以上にならないように管理する。

(ウ) 摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

ウ 病虫害防除

夏秋ギクに準ずる。

3 トルコギキョウ

(1) 生育状況

生育はおおむね順調である。病虫害は、一部でアザミウマ類による被害が見られるものの、病害の発生は見られない。

表-14 生育状況（6月10日現在）

場所	年次	品種	定植月日	草丈 (cm)	節数 (節)
青森市	本年	北斗星	4月7日	14.2	8.8
	前年	北斗星	3月30日	17.2	9.7
田舎館村	本年	ボヤジピンク	4月22日	15.5	8.8
	前年	セブピンク	4月24日	16.9	8.5

(注) 青森市の平年値：昨年から品種が変更されたため、平年値なし
田舎館村の平年値：本年から品種が変更されたため、平年値なし

(2) 今後の作業

ア かん水

発らいまでは乾燥させないように適宜かん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

イ 温度管理

換気や循環扇、寒冷しゃ等を活用し、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除等

今後、灰色かび病やアザミウマ類が多発しやすい時期となるので、予防防除を実施するとともに早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

オ 短茎開花対策

(ア) 9～10月出荷の作型では、定植期が高温長日となるため、短茎で前進開花しやすいが、これを避ける方法として「短日処理」が有効である。

(イ) また、「短日処理」より処理効果はやや劣るが、処理方法が簡易な「遮光処理」がある。

【短日処理】

定植から30日程度、夕方5時から翌朝8時まで100%遮光資材でトンネル被覆し、9時間日長とする。

【遮光処理】

定植から30日程度、遮光率40%程度の白寒冷しゃを展張する（ハウスの内張り、外張り、どちらでもよい）。なお、曇天、雨天で低日照が続く際には、品質が低下する場合もあるので注意する。

畑作・野菜・花き生産情報第4号は令和2年7月20日発行の予定です。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合は、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～
土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和2年度青森県農薬危害防止運動展開中（5月1日～8月31日）
農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、充分発酵させましょう。

家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。

堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。

3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月以上、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。

4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/>

[kachikuhunntaihiseizoukannritenminnaoshi.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukannritenminnaoshi.html))

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

1 農作物共済、畑作物共済

「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

2 園芸施設共済

「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。

なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

台風前の6月と降雪前の11月は『災害に強い施設園芸づくり月間』です。

昨年度に比べ、補償金額の引上げや小損害に対する補償が手厚くなりますので、災害に備え「園芸施設共済」に加入しましょう。

3 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。(青色申告の実施が要件)

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
